

令和2年度 京都理容美容専修学校関係者評価委員会 報告書

日時：令和3年6月

メールにて資料を送付し、関係者の意見。評価をメール、FAXにて返答頂く。

今までの評価を評価委員の方々にお願いをして、関係者評価後に教員の自己評価を見て頂き、評価委員の方々に意見をいつも同じような評価しかならない。
教員評価を見て頂き、それぞれの関係者の方々に意見を聞く方法とした。その後アンケートをお願いし、学校で見かける学生や、サロン実習などで指導した学生が評価対象となる。

教育理念：目標

生徒の態度から学校の様子を感じられる部分がある。
学校にお邪魔したとき学生の挨拶に良い印象を持つ。
学校の改善点として受付の取り組みがよくなったという評価はあるが、未だ完全に行き渡ったようには見られていないところもある。

学校運営

先生が生徒に迎合せずに取り組む姿勢が模範となっている。
技術教育しかわかりませんが、ここ10年間ほど進むのが遅くなっているように思います。
親切ではあるがフレンドリーさがなく、各世代に合わせた方法があるように思われる。
行事日程の把握がされず曖昧な返答になることがあり、対応の不十分さを感じた。

教育活動

ウィッグでの実技実習が中心であるのでリアリティがなくバーチャル（ウィッグ）な教育に感じられる。
工夫が必要であるが、人頭レッスンにより成果が上がるはずである。
年齢と共に理解できるようになるためには、言い続ける教育が花を開くと思われる。
シャンプーのテクニックは本校を含め上手ではありません。
国家試験が大切なことはよくわかりますが、時代による基本の考え方やサロンで行うべきポイントを抑えた授業の取り組みが必要である。
職員のスキルアップについての多少の差があるような指摘がある。
学校もサロンも同様に教育カリキュラムの見直しと向上は必要である
真面目に取り組める姿勢が変わらず感じられる学生は多くいる。
技術も接客も基本的レベルでサロンでの教育による経験・指導が必要。
技術のレベルが上がることを期待する。

学習成果

就職率や合格率に対しては問題ない。

学生支援

地方からの学生のための一人暮らし応援サポートなどは良いと思う。
学生への支援サポートのため独自の支援金制度も考えてみてはどうか。

教育環境

新校舎になり、校内の施設設備は十分対応できていると思うので、活用方法の工夫が必要である。今後、校外実習ではそれぞれの店舗による設備環境が違うのでそれぞれのサロンにて対応できるよう努めてもらいたい。
店舗研修を増やしたくさんの経験をさせられないのか。

学生募集

歴史と伝統があり全国の学校としての質の高さが前面に打ち出せるように工夫が必要である。

財務

長期的にみて基盤は安定していると思われる。
予算収支計画に基づき進めることが必要。

法令などの遵守

学生個人のプライバシーに配慮し、個人情報などの取り扱いには特に注意していく必要がある。

社会貢献・地域貢献

地域の行事などへの参加など地域へ貢献できるボランティア参加も検討が必要。

教育に対する姿勢は教員の取り組み方が問われているように思われる。
これを理解しこれからの取り組みは他校との更なる差をつけるために、教員の姿勢、努力は必須であると思われる。
技術教育においては、リアルな指導を考え取り組む方法を目指すべきである。

入学してくる学生の教育環境の変化の中では、2年間での役割は充分なされています。
しかし学校職員から聞く満足されていない様子を聞くことにより今の「質」でない更なる向上が期待されるように捉えられます。

新しい取り組みとして時間を作り進めてゆくことがすべての項目で必要である。
リーダーによるチェックを受け進めるように取り組まないと前には進まない。

何を取り組むのか計画が必要である。

今後入店された卒業生などの意見もまじえて学校全体の評価としていく。

個人のレベルが学校のレベルと理解されるところが多いすべての項目に答えて頂くのは学校に関係しているとは言え内部までがわかることではないが、指導を受けたことは実現できるよう、来期の取り組みとして新たな授業・行事を入れることにする。

受けた評価に基づき、一つひとつ丁寧に考え、実践することが大切である。

国際交流

令和2年度はコロナ感染拡大のため海外からの短期留学生の受け入れが行えなかった。

社会的にもコロナ感染が収束し、安心して留学生を受け入れられるようになった時には、短期間に日本の技術を指導することは厳しいと思えるが、年の受け入れ回数を増やしてみてもどうか。